オーディオ実験室収載

DA-3000 による DSD 研究(4)
―PCM／DSD フォーマットの音質比較―

１．はじめに

DA-3000 が届き、その操作方法を習得して DSF, 5.6MHz の音質が確認できましたので、PCM／DSD それぞれのフォーマットの音質比較を行うことにしました。

２．フォーマット比較試聴の方法

今回も録音を行わず、手っ取り早い方法として入力ソースをモニターする方法で比較しました。前報(3)までは、MR2000sBK の結果を踏襲して DSF, 5.6MHz を主なフォーマットとして選んで試聴を行ってきましたが、今回は、MR2000sBK において実施したのと同様に、下記のフォーマットの設定により、フォーマット間の音質の違いを探ってみることにしました。

DSF, 5.6MHz　DSF, 2.8MHz　DIFF, 5.6MHz　DIFF, 2.8MHz

WAV, 96KHz 24bit　WAV, 44.1KHz 16bit

マスタークロックは DSD の場合、GPS-777 から 44.1KHzを入力し、WAV の場合、GPS-777 から 96KHz または 44.1KHz とします。

音源は BZT-9000 の BS 録画の再生と EMT981 による CD 再生です。

４．試聴結果

最初に、DSF, 5.6MHz、DSF, 2.8MHz、DIFF, 5.6MHz、DIFF, 2.8MHz の四つの DSD フォーマットについて試聴を行いました。MR200sBK ではこの他に WSD のフォーマットが可能ですが、DA-3000 ではサポートされておりません。

結論を言えば、MR200sBK の場合と同様で、5.6MHz と 2.8MHz の比較では、後者の音の肌理が粗くなります。DSF と DIFF の比較では、DIFF の方が若干立ち上がりが鈍ってディテールの再現で劣るようです。

WAV, 96KHz 24bit と WAV, 44.1KHz 16bit の比較では、後者はいかにも PCM というような感じでエッジは立つものの粗さが目立ち、前者ではそれが緩和されました。

WAV と DSD の比較では、MR200sBK の場合と同様で、PCM のエッジがたったメリハリのある音に対し、DSD は滑らかで粒子の細かい音を聴かせてくれました。

CCV-5 からの 96KHz PCM 信号を S/PDIF で受けて、SRC 機能を使い、WAV, 192KHz 24bit で聴いてみようと試みましたが、SRC 機能を効かせるときは外部クロックのマスタークロックは効かないらしく内蔵クロックでしか SRC で 192KHz にアップコンバートできないことが分かり、外部クロックを効かせた状態でハイレゾ化による高音質化を期待することができな

いことが分かりました。

５．まとめ

MR200sBK の場合と同様、DSF，5.6MHz がもっとも好みに合うことが分かり、今後はこのフォーマットを主体に試聴を行っていきます。

以上